

「教育の質保証」実践セミナー

福岡 10/14 (水) 大阪 10/15 (木) 東京 10/21 (水)

【第1部】 13:00~14:15 「教育の質保証」基礎編

定番セミナー

「教育の質保証」とは ~背景が分かるとやるべきことが見えてくる~



「教育の質保証」というキーワードが意味するものは何か。その背景を整理することで、いま「教育の質保証」で必要といわれる各取り組みの趣旨を確認します。趣旨が分かれば、「教育の質保証」の取り組みに出てくる、「単位の実質化」、「成績評価の厳格化」、「シラバス改革」、「アクティブラーニング」、「ラーニングアウトカム」などのキーワードが整合性のとれた1つのシステムであることに気が付きます。そして、IRとして、何に取り組むべきかも見えてきます。

「教育の質保証」でいったい何が求められているのか、その意図が見えるようになり、競争的資金獲得の際にも、効果的な企画を立案できるようになります。

「教育の質保証」で必要といわれる各取り組みの位置づけを整理し、IRとして何から手を付けるべきかのヒントをご提供いたします。

「教育の質保証」に他の人を巻き込むための分かり易いストーリーや言葉が手に入ります。

【第2部】 14:30~17:45 「教育の質保証」実践編

＜セッション1＞ 「IRで進化する中退予防」 ~中退者を3年で半減した方法~



NPO法人NEWVERY 理事長 / 日本中退予防研究所 所長 山本 繁

これまでの中退者を減らす取り組みは、学生が中退を申し出たところから手厚いサポートを行うというものが主でした。いま IR を活用し、**中退予備軍となる学生を予測し**、中退を申し出る前に対処することから、中退を減らす取り組みが進んでいます。本セッションでは、『中退予防』とは何かを定義したうえで、多くの学校で成果を生んでいる中退予防戦略の実践事例をご紹介します。

中退が引き起こす想定外の影響に備えることができるようになります。

統計に表れない学生の本当の中退理由があることを学びます。

IRを活用した中退予防戦略の具体的事例に学びます。

＜セッション2＞ 「募集戦略を変えれば、全てがうまくいく」 ~志願者数を3年で20%増した方法~



学校のことを理解し、是非ここで学びたいと思って入学してくれる学生ばかりになったことを想像してみてください。入学後のサポートもしやすくなり、中退も減るでしょう。きっと勉強も頑張ってくれるに違いありません。高校と連携して、高校生と信頼関係を築くことで、入試広報の効果を質・量ともに高める方策をご紹介します。「教学 IR」にもとづき貴学がどの層の高校に、どのようなメッセージを届けるべきか、作戦を立てるためのヒントをお持ち帰りください。

高校教員の視点を知り、受験生に自学を薦めてもらうためのヒントが手に入ります。

学生のことを良く知る教学 IR が入試広報の効果向上にどう役立つかがわかります。

偏差値ではなく、自学との相性の良さで募集を行う方策を学びます。

＜セッション3＞ 「教育の質保証」を実現するための実践事例

本セッションでは、質の保証への取り組みに関するモデル事例を通じ、次の2つに関する情報提供を致します。各大学が試行錯誤を繰り返しながら、多くの時間と労力をかけた工夫の成果をお持ち帰りください。

- ①どのように学修成果を把握し、学生指導や評価、教育活動の改善に繋げていけばよいか
- ②中期経営計画の実現につながる動きをした人が正しく評価される仕組みの作り方

九州工業大学「ディプロマポリシーに基づいた学生の達成度評価」

ディプロマポリシーと各授業との関連付けを行い、授業ごとの成績および学生自身の自己評価によってディプロマポリシーに対する達成度を可視化する取り組みを紹介いたします。

また、多くの大学がFD活動として実施している授業アンケートは、「否定的な意見を持つ教員がいる」、「費用と労力をかけた割に有効な活用ができていない」、などの問題が浮き彫りになってきています。アンケートを取る代わりに、学生の自己評価による理解度データを活用することで、より効果的な授業改善を行う方法をご提案します。



- ・カリキュラムマップからディプロマポリシーベースの達成度をチャート表示
- ・学生自身の自己評価を核とした学修意識改革
- ・学生の理解度データのFD活用

広島女学院大学から生まれた「教職員が連携した学修サポート体制の構築」

これまで教職員が、既に取り組んでいたことを戦略的に連携させることで、ほとんど業務を増やさず、学修サポート体制をより充実させた取り組みをご紹介します。

学生の学びの状況を一目見てわかるようにしたことで、学生にとっても、指導する側にとっても、次にやるべきことが見えやすくなりました。また、学内に散らばるデータも一元化でき、IR基盤としての活用も始まっています。

半期に1度の教員と学生の面談を、1年生から始まるキャリア指導として再定義して、教員間のサポート品質のばらつきを是正する取り組みも進んでいます。



- ・パッと見て学生の学修状況がわかり、視覚的に進むべき道に気付く
- ・学生が自ら進路を考え行動していくようになる仕掛け
- ・要サポートの学生を早期発見し、確実にサポートしていくアクションシグナルシステム

＜セッション4＞ 「授業評価アンケートの効果的な活用法」



授業評価アンケートには、多大な労力やコストを掛けて実施している学校も多い中、相応の効果を得るのに苦労しているのが大きな課題となっています。一部、教員評価に活用しているケースもありますが、教員自身が効果的に授業改善を行えるよう、情報を整理し、支援することが重要です。また、教育の質保証の観点からは、授業単体での改善に留まらず、カリキュラムがうまく機能し、目的の人材がより効果的に育成できることが求められます。

これの要請にこたえるために進み始めた、授業評価データを活用した取り組みについてご報告いたします。

- ・教員が、主体的に授業を改善する状況をどのように作り出すか？
- ・教育の質保証は授業単体でのFDのみでは実現できない
- ・カリキュラムの改善、何から手を付ければいいのか？
- ・授業評価データの効果的な見せ方